

岡山学院大学・岡山短期大学

平成 30 年度 FD・SD ワークショップ実施報告



日 時： 平成 30 年 12 月 25 日（火） 9：10～15：00

場 所： 岡山学院大学・岡山短期大学 情報処理教育センター D302

評 価 員： 九州情報大学・山口短期大学 麻生隆史 理事長・学長

時 間	内 容
9：10～10：10	岡山短期大学幼児教育学科 報告 平成 29 年度は、 1. 退学者防止策 2. 社会貢献活動 3. シャトルカードの活用法 4. 授業参観 5. 個人面談 6. 公開講座た課題と改善策 (15 分の質疑応答含む) (質疑応答後 5 分休憩)
10：20～11：20	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 報告 1. 退学者防止策の検討 2. 社会貢献活動の現状分析と産学官連携事業の今後の展開の検討 3. シャトルカードの活用法について 4. 教員相互の授業参観 5. クラスメンターの面談から本学が掲げている課題の検討 6. 公開講座実施状況の分析とリカレント教育の検討 7. 栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室の取組と見直しについて (15 分の質疑応答含む) (質疑応答後 5 分休憩)
11：30～12：30	岡山学院大学・岡山短期大学事務部 報告 平成 30 年度も議長（学長）のもと、計 6 回 SD 会議を実施した。 第 1・2 回はオープンキャンパスについて行った。各学科の教員も 2 名ずつ参加し、本年度のオープンキャンパスの運営における疑問や新規取り組みの確認等を中心に行った。2 回目は、これに加え日本私立短期大学協会が作成した「短大クエスチョン」の内容の確認を行った。 第 3～6 回は、次年度に岡山短期大学で認証評価を受審することもあり、多くは短期大学の認証評価に関する内容となった。 第 3 回では、幼児教育学科の教員 5 名も参加し、短期大学評価基準等について学長から説明を受けた。

	<p>第 4 回では、平成 31 年度短期大学認証評価受審にあたって、事務職員の知識と理解を深めると共に評価基準の確認を行った。</p> <p>第 5 回では、経営改善計画について学長より説明を受けた後、短期大学認証評価基準に基づいて自部署業務における自己点検について各自発表を行い、全員で分析を行った。</p> <p>第 6 回では、第 5 回で発表後分析を行った各自の発表を修正し、再度各自発表・分析を行った。</p> <p>本年度のワークショップでは、平成 31 年度岡山短期大学認証評価を受審するにあたって、各事務職員が短期大学認証評価基準に基づいて自部署での基準及び観点に対して、自己点検・評価と課題について報告した。(15 分の質疑応答含む)</p>
12:30~13:30	昼休憩
13:30~14:30	<p>講演：Twitter,Facebook の使い方と安全性 － SNS の利用方法を間違えると危険がいっぱい －</p> <p>講師：九州情報大学・山口短期大学 理事長・学長 麻生隆史 先生</p> <p>プロジェクトを使用して実際にネットに繋ぎ Facebook、Twitter を起動させアカウント作成・検証しながらの講演であった。</p>
14:30~14:45	<p>講演に対する質疑応答</p> <p>11 月にウェブサイトをリニューアルした。公式 Facebook、Twitter、Instagram の作成、管理についてアドバイスを求め、適格な説明を受けた。</p>
14:45~15:00	<p>総括（学長 原田博史）</p> <p>平成 30 年度の FD・SD ワークショップでは、大学及び短期大学共に、次の事項を追加してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退学者防止策を検討する。 ○ 現在実施している地域創生を踏まえた社会貢献活動を分析し、産学官連携事業にどのように活かすことができるか検討する。 ○ 教員によってチャトルカードの活用法が異なるので、専任教員のチャトルカードの活用法を分析し活用法を再検討する。 ○ 授業参観を実施し各自の授業手法の課題の発見と改善を図る。 ○ クラスメンターによる学生面談から、教育の課題を発見する。 ○ 公開講座の実施状況を分析し、公開講座の向上・充実を図る。 <p>大学も短期大学も改善すべき点が見えてきたので、次年度へ向けて改善策を講じてほしい。</p> <p>麻生先生の講演により、本学のウェブサイトに SNS を導入することができるようになり感謝したい。</p>

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 FD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学
氏 名 麻生隆史

平成 30 年 12 月 25 日の FD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学 FD (ファカルティ・ディベロプメント) 委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。

総評

全体的に現状分析を行い、課題に対する改善計画や行動計画がわかりやすくなっている。ただし、長年取り組んできた活動に関しては、段階的のどこがどのように改善されてきたのかが見えにくい。

退学者防止策、社会貢献活動・産学連携、シャトルカードの活用、教員相互の授業参観、クラスメンターの面談、公開講座・リカレント教育、栄養長寿教室・地域訪問栄養長寿教室等の様々な取り組みに関して報告がなされた。

退学者防止策は、具体的であり工夫が見られるが、学力不足の学生に対し十分な補講や再試験を実施し本当に成果が上がるのか今後に期待したい。

社会貢献・産学連携はよく活動している。今後の展開として在学生の学習成果との関連性の視点があれば、その内容も知りたい。

25 年から実施しているシャトルカードの活用は、やや形骸化しているように感じるが、今後の改良で示された内容を生かされることが望まれる。

教員相互の授業参観は、目標達成と全学的取り組みが見えてきた、今後の展開として教員の教授力向上に期待される。さらにシラバスの相互評価と学生アンケートの連動が楽しみである。

クラスメンターの面談の課題は、様々な角度から取り組んでいることが評価できるが、これらが具体的な学習成果との関係がよりわかることが重要である。

公開講座の実施状況分析は、より多くの方にアピールできるかが課題であり、その戦略もあるが今後の講座内容充実と、広報活動の検討を着実に進められることが重要である。

栄養長寿教室・地域訪問栄養長寿教室は、その取り組みと見直しを課題としている。ループリックやアンケートによってよく分析されているので見直すべき課題が見えてきたようだ。在学生の学習成果の獲得向上となることが期待される。

岡山短期大学幼児教育学科 FD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学
氏 名 麻生隆史

平成 30 年 12 月 25 日の FD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学 FD (ファカルティ・ディベロプメント) 委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。

総評

少子化や都市部への人口集中により、地方の短期大学の幼児教育学系の定員確保が厳しい状況であることを踏まえ、いかに魅力ある幼児教育学系短期大学を目指すのかが課題である。

退学者防止策は、退学や休学に至った詳細な分析がなされている。課題でも指摘されている、友人関係のトラブルや保育者になろうとする気持ちの低下や復学後のモチベーション低下は何らかの努力により良い方向に持っていくことが出来ると思われるが、全体的に限界も見えてくる。ここでクラスメンターの細部にわたる個々の学生対応が重要であることが見えてくる。様々なケースに対してクラスメンターを中心として全学的に取り組まれることが期待される。

社会貢献活動は、地域創生を踏まえて実施されている。発表会・公開講座・リカレント教育、倉敷市との連携、児童文化部の活動等地域に根ざした取り組みといえる。これらのことが、学生・教職員・地域といかに深く継続的に繋がっていくかが重要である。

シヤトルカードの活用は、課題もあるが成果も見えてきた。今後は各先生がいかにこれを有効に活用していくかが重要であり、形式的なものであってはならない。

授業参観は、昨年参観から得られた課題と改善計画への取り組みは評価できるが、それが、ごく限られた範囲で実施されている。幼児教育学科全体の取り組みとして捉えていくことを期待することを指摘したが、それぞれの仕事の都合もあるだろうが他の先生方の参加が少ないままである。ただ、その内容に関しては要点ごとに課題解決がまとめられていることは評価できる。学生の学習成果獲得の観点に繋がることが期待される。

個人面談は、エンロールメント・サポートの一環として PDCA サイクルによる取り組みとなっており評価できる。前述の退学者防止に繋がる取り組みとなしてほしい。

公開講座は、受講者減少に何らかの方策を考える必要があるだろう。企画とあり方はもう少し魅力ある取り組みを考案されることが望まれる。メールマガジンや SNS の活用は評価できる。

岡山短期大学は、平成 31 年度に機関別認証評価を受ける。様々な課題に対して全学的に取り組む改善計画や行動計画が良い方向に推進されることが期待される。

岡山学院大学・岡山短期大学事務部 SD ワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学
氏 名 麻生隆史

平成 30 年 12 月 25 日の SD ワークショップは岡山学院大学岡山短期大学SD(スタッフ・ディベロプメント)委員会規程に従って十分な内容であったか一般的な SD として十分な内容であったか率直な評価をお願いします。

総評

来年度、岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会より機関別認証評価を受けるにあたり、事務部として各事務職員が短期大学認証評価基準に基づき自部署での観点を把握していることがわかる報告であった。

昨年度の FD・SD ワークショップでの報告を踏まえ、多くの職員が SD 自己点検評価に参加していることは評価できる。ただ、現在の SD は教学に関連する項目も多いので、事務部と教学組織とのより密なる連携が望まれる。

報告においては、各事務職員がそれぞれの立場で、評価基準に対応した基準・テーマ・区分・観点を理解している。もちろん各部署において現状の捉え方や課題・改善計画・行動計画に少々の差異はあるが、全体としてバランスが取れている。本年度 12 月まで 6 回の SD 会議を実施しており、その際設定された各議題とその内容もよく吟味されている。

学習成果に関するアンケートを必要な時期に 4 回実施しているが、実施時期は適切である。無記名アンケートによる学生へのフィードバックを含めより効果がある改善を期待する。図書館の有効利用に関しては教員との強い連携で学習成果の獲得に寄与しているが、特定の教員のみならず全学的なアプローチが重要である。食堂や宿舎に関する事項は、改善計画が具体的でわかりやすい。教育資源の活用・生活支援・地域社会貢献・施設設備も学習成果の獲得に寄与している。量的・質的データを用いた学習成果の獲得にクラスメンターの積極的関与や GPA を活用しているが、時間割作成・単位認定やルーブリックを整理・活用するにあたり、まだ課題があるようだ。

建学の精神・大学の教育目的・各学科の教育目的・3 つのポリシーが明確である。課題はあってもそれらの連携や関連性が学生の学習成果の獲得に繋がるように事務部では努力されている。今後の教学サイドとの綿密な連携が重要な課題であろう。